

ごあいさつ



公益社団法人 日本 WHO 協会

前理事長 関 淳一

去る6月18日午前7時58分頃に、大阪北部を震源とする最大震度6弱の地震が発生しました。

実は、丁度その日に、私共(公社)日本WHO協会は役員改選の年に当たる2018年度の社員総会、及び新たに選ばれた役員(理事、監事)による理事会の開催を予定していました。

当初、大阪市内の交通機関は殆んど停止状態で電話連絡も困難な状況でしたので、社員総会・理事会の開催が危ぶまれましたが、午後になり、交通機関も徐々に運行が開始され、何人かの出席予定者から、出席可能との連絡も入りましたので、予定通り午後4時より社員総会、続いて理事会を開催することを決断しました。

当日の総会、理事会は、幸いにして何れも定款における成立の定数が満たされ無事開催され、役員改選を含むすべての議題を予定通り議決することができました。

特に今回は、小生の理事長退任と後任の理事長として、中村安秀氏の選任が議決されました。

ここで、この場をお借りしまして、4期8年の理事長在職中に、皆様方から頂いた御協力と御厚誼に心から厚く御礼申し上げます。

ところで、今年のWHO世界保健デーのテーマとスローガンは「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) ～全ての人に健康を」です。今回、永年に亘って、UHCを念頭に現場での国際的活動を経験され、この度当協会の理事長に就任された甲南女子大学看護リハビリテーション科の中村安秀教授に、理事長就任早々のご多忙中に、「誰もがどこでも保健医療を受けられる社会に」と題して御寄稿

頂きました。

また今回は、本年3月5日に開催したフォーラム「健康寿命を延ばそう～フレイルを予防して～」の内容を掲載させていただきました。

現在、日本は既に超高齢社会に入っており、平均寿命も今後更に延伸すると予測されています。その様な中で人生の最晩年を如何に過ごせるかと言うことは、我々一人一人にとって極めて重要な課題であります。そこで、晩年の健康状態を阻害していると言われ、最近メディアでもしばしば取り上げられている、フレイル、オーラルフレイル、サルコペニア等について、先ず皆で正しい知識を共有したいと言うことが今回のフォーラムの主旨であります。

当日、その道の第一線で活躍されている、名古屋大学大学院医学系研究科教授の葛谷雅文先生と大阪歯科大学有歯補綴咬合学准教授の田中順子先生の御二人に極めて分り易く御講演頂き、その後活発な質疑が行われました。

又、本年1月から2ヶ月間、スイス・ジュネーブのWHO本部でのインターンシップを経験された、長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科の高瀬絢様に、2ヶ月の間の経験を通じて改めて感じられた「口の健康」の重要性等についての貴重な一文を御寄稿頂きました。

最後に、今後(公社)日本WHO協会が、中村安秀新理事長の永年に亘る国際保健医療の場での御経験と理念を基にした新たな視点で、次のステップへ向かって大きく発展される事を心から期待し、私の御挨拶と致します。

平成30年7月